

JR阪和線六十谷駅より西二キ、和歌山市園部の北、鳴瀧川の東に円明寺がある。本尊は釈迦如来で、毎年四月二十八日には護摩供が行なわれる。

鳴瀧川にそって山に入ると、右手に馬頭観音<sup>⑥</sup>があり、やがて深い峡谷となり鳴瀧不動の滝が淵をなし、左手に護摩壇の建物がある。毎月二十八日には、和歌山市内の和光組や不動講の信者が護摩修行を行なっている。橋を渡り右手へ登ると、役行者像や尊像が並び、奥に不動堂が崖の上に建っている。川の道をたどると巨岩や石祠があり修験の山にふさわしい感をうける。

この西に『葛嶺雜記』にある善明寺<sup>ぜんみょうじ</sup>がある。

鳴瀧不動の下流にかかる聖護院橋をわたり淡島街道を進むと、「楠見行者前」のバス停の北にでる。そこから北東の丘に「役行者の窟」があり、石を積み木の格子扉がある。付近に熊野権現、住吉社、地藏尊、八王子などが祀られている。境内に「桜組」の手水鉢が寄進され、また風化した宝曆三年（壬午）二月の和泉砂岩の清浄水がある。

護摩札には「四ノ宿」とあり、飯盛山の南麓にあり高仙寺と同じ宿番になっているかも知れない。

ここは北の団地造成によって移建された地である。

⑥牛馬の供養や無病息災の祈願を目的にした石造物。

鳴瀧不動の行所



## 五、大福山と本恵寺

### 大福山の経塚

大福山は、紀泉アルプスの主峰、雲山峰四九〇呎の真西の稜線上にある。北に一等三角点の組石山四二〇呎、東に鏡法ヶ岳、南西に札立山三四九呎の尾根が集まる山である。

この山へは、JR阪和線六十谷駅から千手川にそって北の雲山峰への登山道を進むと、左手に大福山本恵寺<sup>ほんゑじ</sup>がみえる。それより口畑、そして奥畑の里にさしかかると道が二分し、右は雲山峰・井関峠、左が大福山への山道である。やがて「大福山、弁財天上り口」の道標から八王子跡付近の急登をすぎると、高仙寺から札立峠をへた修験の道に合い大福山頂につくのである。

この山は、麓の大福山本恵寺の奥ノ院に当たり、平成二年に少し下にあった「大福山」の石碑を山頂に移建し、弁天社も祀られている。



奥畑の八王子跡道

石碑は高さ一呎の花崗岩に「大福山」と刻され、右に「元禄九丙子（三癸）三月二十八日建之、大田松軒日秀」、左に「紀伊国名草郡直川村」、裏に「葛城道第十二番行處提婆品窟」とある。

『紀伊統風土記』は、「<sup>①</sup>雲山が峰に次ての高峰なり、眺望大抵雨の森（雲山峰）に同じ。絶頂に松樹うつとして石の宝殿あり、仏像を石に彫たり是を弁財天といふ。山伏第十二番の行所なり。本恵寺の観音は古此地に有しといへり、地形を察するに堂など構ふべき地なし、観音の小堂ありしなるべし。今此所を奥の院といふ。傍に石碑あり正面大福山と彫めり、下は土中に埋れて見えす」とある。

また『紀伊国名所図会』は、「大福山弁財天之窟、又提婆品の窟ともいふ。是すなはち本恵寺の旧地なり」と記され、また「修験道第十二の行所なり」とあつて、ともに「第十二提婆品」としている。これに対し『諸山縁起』の「<sup>②</sup>譬喩品」、『葛城峯中記』の「大福山、福寿童子、譬喩品第三、谷三千手寺」、さらに加太、向井家の『葛城峯中記』にも「奥院、福寿童子、不動明王、譬喩品経塚」と明記し、これより「雨師ヶ嶽へ五拾町斗」とする。

智航の『葛城雑記』は、本恵寺からみて「本堂より東にて、落合村より（の方向）丑寅（北東）に、はかの谷といふ所に塚、妙譬喩品第三



大福山の経塚

- ① 復刻版第一輯一九三、四頁。
- ② 復刻版一卷四一〇頁。
- ③ たとえを引いて説法をする。

之地」と記し、

朝霧の 大福山の奥までも  
経塚たてし 人の頼もし

と詠み、第三経塚が墓ノ谷、すなわち役行者御母公の墓にあつたと記されている。

### 雲山峰の経塚

一方、最高峰の雲山峰山頂には、石積み石祠があり、これが第三譬喩品の経塚ともいわれている。『紀伊統風土記』は、「<sup>④</sup>雨が森といふ（中略）近国渡海の船此嶺を望みて方角を知るといへり最も絶景なり。頂上松樹一簇の中、八大龍王の社あり。境内四百四十間、修験者の行所なり」とあり、『紀伊国名所図会』は「<sup>⑤</sup>雲山峰天明神」として、里人はまず雲がかり雨が降るので、「雨候」として雲山峰の名となつたとされている。

このように第三譬喩品の経塚は、大福山、墓ノ谷、雲山峰の三説があり、決定づける証拠はないが、『諸山縁起』の「七部経」とある大福山が雲山峰の石祠であらう。

この雲山峰の西、井関峠と大福山の間に、<sup>⑥</sup>籤法ヶ岳九八一呎がある。

- ④ 復刻版第一輯一九三頁。
- ⑤ 復刻版一卷三九八頁。



雲山峰の経塚

いまは山頂から北方の展望はよい。『紀伊国名所図会』には、「<sup>⑥</sup>修験道の行所なり。……<sup>⑦</sup>登攀頗る苦めり。最高頂にいたれば、古松<sup>⑧</sup>蔚たる中に、兒の松といふあり」とあって、謡曲「谷行」に峰入の修行に、松若丸という小児が修行した善孝の物語があり、この山と結びつけて『図会』に記されている。

### 直川の観音さん

さて、大福山の奥ノ院にあった千手寺は、麓の本恵寺に移り「直川の観音さん」として里人に敬われている。

『本恵寺縁起』には、「文武天皇大宝二年（七〇二）役ノ行者開基なり。往古は五十町餘北の方、山中弁財天の窟にあり、其山を大福と称す。其の後、由良の興国寺の開祖、法燈国師、感得の靈夢に依て正安元年（二九六）龍實禪師に附命し、今の地に移し是を中興開基とす。天和三年（二九三）水野土佐ノ守、官に白して法華に改宗し、新宮本廣寺日忠上人を請して開会し本恵寺と改む」とある。鎌倉時代の執権、北条貞時のころである。

本恵寺について、『紀伊国名所図会』は、「日蓮宗身延門派、新宮本廣寺に属す。本堂千手觀世音、立像にして、長三尺一寸、役行者の作

⑥復刻版二卷四一〇頁。



本恵寺の観音堂

⑦『紀伊統風土記』復刻版第一輯一九三頁。

⑧復刻版二卷四〇二頁。

なり」とあり、「開山堂、経堂、六所権現社、鐘楼、僧坊、仁王門、辨天社、薬師堂、妙見堂」が列記されている。

JR六十谷駅から千手川にそっていくと、橋を渡った所から山内に入る。石段を登ると朱塗りの仁王門がどっしりと建ち、両方に仁王像がたっている。あたりは桜の老樹である。石段の右に元禄三年（二九六）建立の日蓮宗寺院の「南無妙法蓮華経」の石碑がたっている。

境内は広く、『名所図会』に記された建物は備わっている。丸瓦にも「大福山」の記号があり、昭和七年（二九三）の和歌山若櫻講の大峰登山の五十度供難碑がある。

また「延宝七年（二七五）三月十八日、葛城山下千手寺堂前」の灯籠がたっている。

本堂には、明治六年（二七三）九月の和歌山区妙法講社、開元組の扁額が掛かっている。



本恵寺の丸瓦